

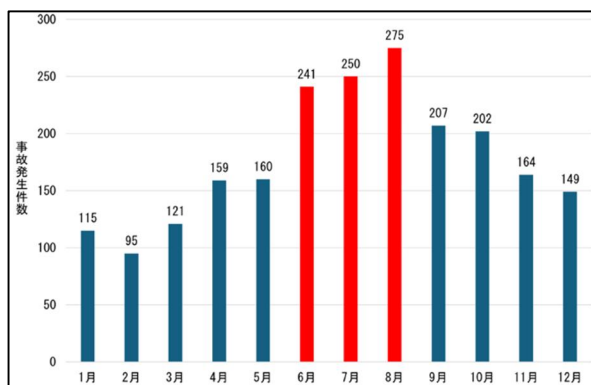
『夏バテ（夏のバッテリー）』にご注意を

～「リチウムイオン電池搭載製品」は3つのCで事故を防ぎましょう！～

モバイルバッテリーやスマートフォンなど、繰り返し充電して使える「リチウムイオン電池搭載製品」は私たちの生活に欠かせないものですが、事故は年々増加しており、特に夏場に増加する傾向があります。独立行政法人製品評価技術基盤機構〔NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原〕は、本格的な夏を迎える前に「リチウムイオン電池搭載製品」の事故を防ぐポイントを紹介します。



モバイルバッテリーの発火（再現実験）



リチウムイオン電池搭載製品の月別事故発生件数（不明2件除く）

2021年から2025年までの5年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※1}では、「リチウムイオン電池搭載製品」の事故^{※2}は2140件あり、製品別ではモバイルバッテリーの事故が最も多く発生しています。事故発生件数は春から夏にかけて気温の上昇とともに増加する傾向を示しており、8月にピークを迎えます。

また、近年リチウムイオン電池搭載製品での火災が増加していることを受けて、経済産業省や環境省等の関係省庁が連携し、リチウムイオン電池の「3つのC」^{※3}という呼びかけを行っています。この「3つのC」を確認し、事故を未然に防ぎましょう。

■リチウムイオン電池搭載製品の事故を防ぐ「3つのC」

○賢く選ぶ（Cool Choice）

- ・購入前に、販売事業者の連絡先や製品情報、リコール情報を確認する
- ・表示マークが適切か確認する など

○丁寧に使う（Careful use）

- ・高温となる場所では使用・保管しない
- ・強い衝撃や圧力を加えない
- ・異常を感じた場合は使用を中止する など

○正しく捨てる、そして資源循環（Correct disposal with better recycling）

- ・家電製品を廃棄する際はリチウムイオン電池の使用の有無を確認する
- ・メーカー回収や自治体の回収区分等の廃棄方法を確認する など

別紙2に、「リチウムイオン電池搭載製品のチェックリスト」を掲載しています。

（※）本資料中の全ての画像は再現イメージであり、実際の事故とは関係ありません。

（※1）消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

（※2）事故件数の中には、調査中の事故や原因は特定されていないがリチウムイオン電池に起因した可能性があると推定される事故も含みます。

（※3）環境省「リチウムイオン電池総合対策パッケージの策定について」https://www.env.go.jp/press/press_02192.html

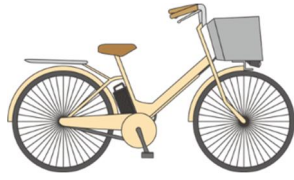
リチウムイオン電池搭載製品について

■リチウムイオン電池搭載製品とは

「リチウムイオン電池搭載製品」とは、リチウムイオン電池を電源として使用する製品を指します。リチウムイオン電池は、小型・軽量でありながら高いエネルギー密度を有し、充電により繰り返し使用できる特性を持つことから、多種多様な製品に広く利用されています。



モバイルバッテリー



電動アシスト自転車



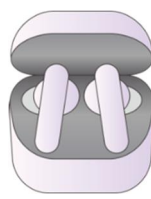
充電式電動工具



充電式掃除機



ポータブル電源



ワイヤレスイヤホン



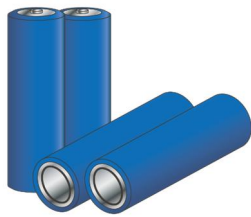
ワイヤレススピーカー



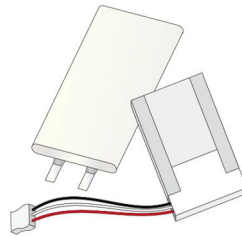
携帯用扇風機

■リチウムイオン電池の種類

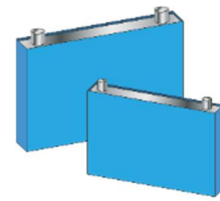
リチウムイオン電池は、用途に応じて円筒形・ラミネート形・角形の3種類の形状があります。



円筒形
(ノート PC、携帯用扇風機等)



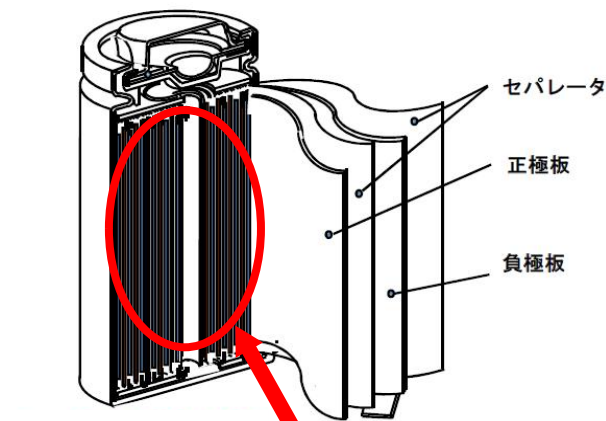
ラミネート形
(スマートフォン、
モバイルバッテリー等)



角形
(デジタルカメラ、
携帯ゲーム機等)

■リチウムイオン電池の構造

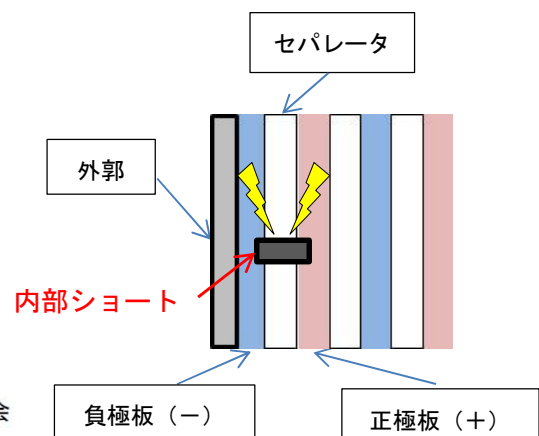
リチウムイオン電池の内部は、正極板と負極板をセパレータで隔離している構造となっており、正極板と負極板の間でリチウムイオンと電子をやりとりすることで電気エネルギーを生み出しています。正極板と負極板が何らかの理由で電氣的につながることを内部ショートと呼びます。



セル (例: 円筒形の場合)

画像提供: 一般社団法人電池工業会

可燃性の電解液で
満たされている



1. 事故の発生状況

NITE に通知された製品事故情報のうち、2021 年から 2025 年までの 5 年間に発生した「リチウムイオン電池搭載製品」の事故 2140 件について、事故発生状況を以下に示します。

1-1. 年別・製品別の事故発生件数

図 1 に「年別・製品別の事故発生件数」を示します。近年、リチウムイオン電池搭載製品の需要増加や多様化に伴い、事故件数は年々増加傾向にあります。製品別ではモバイルバッテリーの事故が最も多く、2025 年は 2021 年に比べて 3 倍以上に増加しています。また、ポータブル電源の事故も増加傾向にあります。

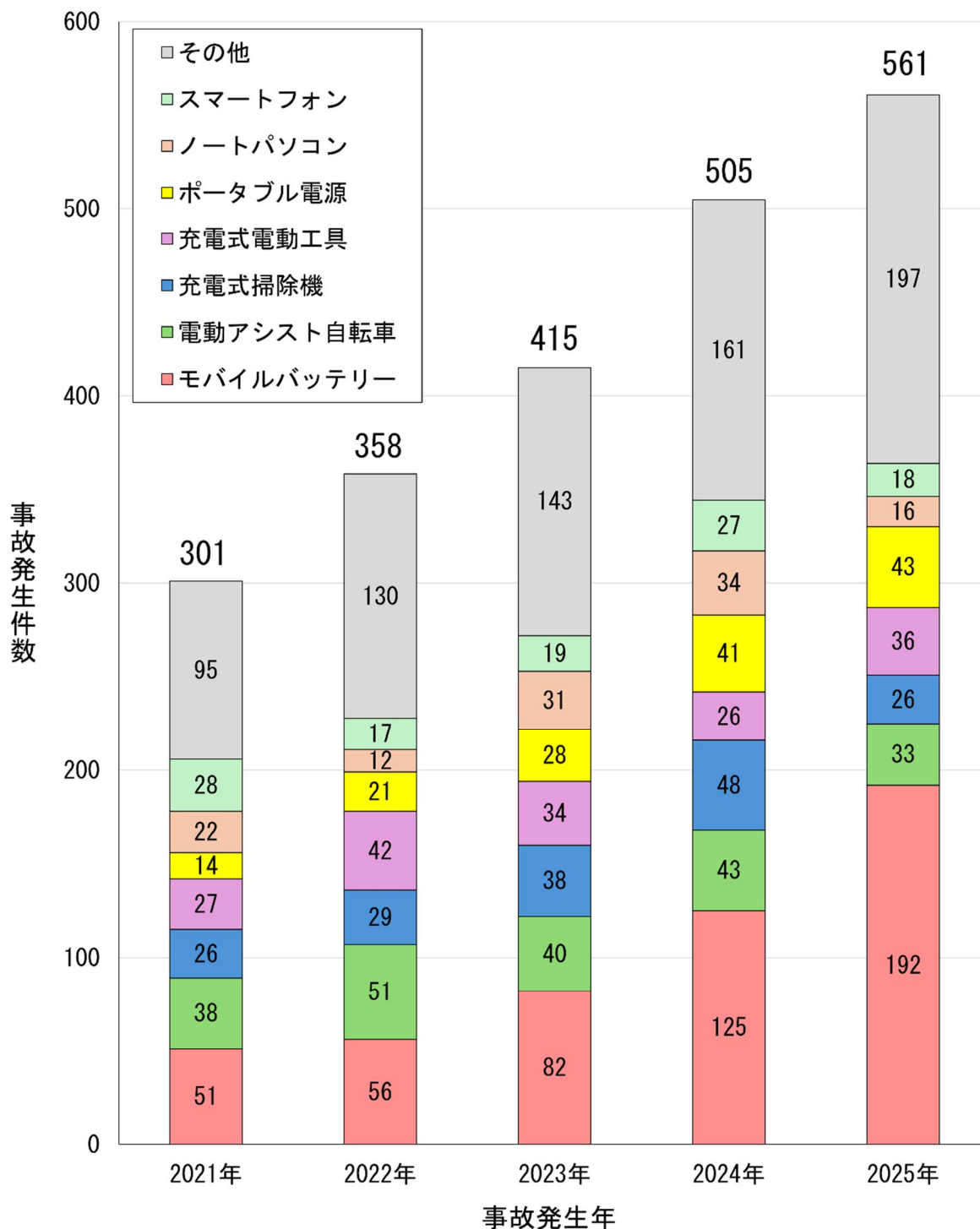


図 1：年別・製品別の事故発生件数

1-2. 月別の事故発生件数

過去5年間のリチウムイオン電池搭載製品の事故について、図2に月別の事故発生件数のグラフを示します。気温の上昇とともに事故発生件数は増加し、8月にピークを迎えています。これは、リチウムイオン電池が高温環境にさらされることで電池内部の温度が上昇し、異常発熱や発火などのリスクが高まるためと考えられます。

また、事故発生年ごとに比較すると、2023年以降は夏季の事故件数がより増加する傾向が見られます。この要因の一つとして、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、人の移動や外出機会が増加したことにより、製品が高温環境にさらされる機会も増えた可能性が考えられます。

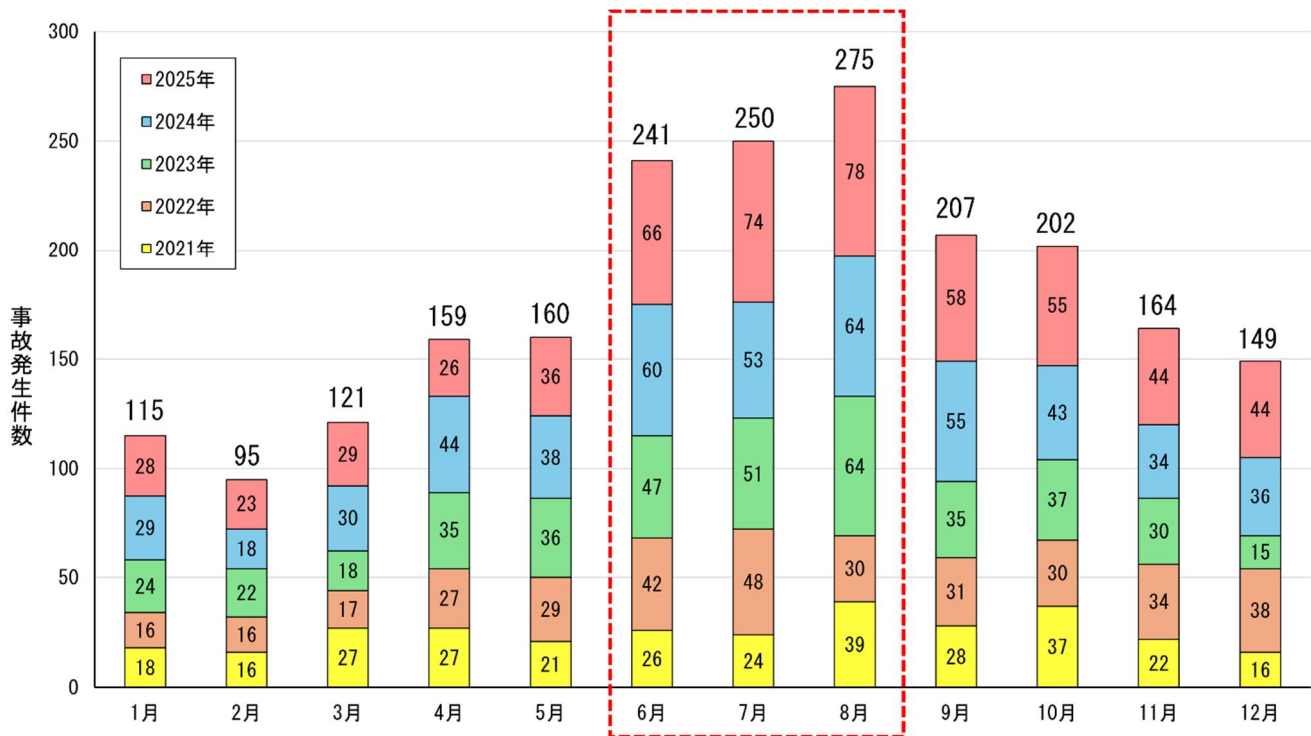


図2：月別の事故発生件数（事故発生月不明の2件を除く）

2. 事事故事例

■事例1：高温下の自動車内に放置したことによる事故（モバイルバッテリー）

事故発生年月 2024 年 7 月（滋賀県、年齢性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

店舗の駐車場で車両内に置いていたモバイルバッテリー及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

モバイルバッテリーに内蔵されているリチウムイオン電池セルが内圧上昇による膨張で破裂し、噴出した可燃性ガスに引火したものと推定される。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード】

モバイルバッテリー 膨張 電池セル



自動車内でモバイルバッテリー
が発火する様子（再現実験）



■事例2：バッテリーに衝撃を与えたことで発火した事故（モバイルバッテリー）

事故発生年月 2024 年 7 月（大阪府、男性・10 歳代、拡大被害）

【事故の内容】

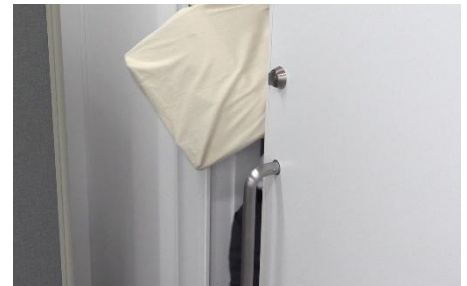
モバイルバッテリーをかばんに入れて自転車で走行中、異音が生じたため確認すると、モバイルバッテリー及び周辺を焼損する火災が発生していた。

【事故の原因】

リチウムイオン電池セルの焼損が著しく、事故原因の特定には至らなかったが、外郭ケースや制御基板の一部に割れが認められ、その破片にすすや焼損等の痕跡が認められないことから、モバイルバッテリーに内蔵されているリチウムイオン電池セルに外力が加わったため、異常発熱した可能性が考えられる。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード】

モバイルバッテリー 電池セル 外力



スマートフォンを入れたかばんを
扉にぶつける様子（再現動画）



■事例3：購入後にリコール情報を確認しなかったことによる事故（モバイルバッテリー）

事故発生年月 2025 年 1 月（千葉県、年齢性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

モバイルバッテリーを充電中、異臭及び発煙が生じたため確認すると、モバイルバッテリー及び周辺を焼損する火災が発生していた。

【事故の原因】

リチウムイオン電池セルの焼損が著しく、異常発熱した原因の特定には至らなかったが、モバイルバッテリーに内蔵された電池セルが異常発熱し、出火したものと推定される。

なお、輸入事業者は、電池セル製造サプライヤーによる不適切な部材使用が見つかり事故の可能性があるため、対象型式について、2024 年 9 月 17 日からホームページに情報を掲載し、バッテリーの回収及び交換を実施している。また、2025 年 6 月 26 日に対象範囲を拡大している。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード】

回収 交換 モバイルバッテリー



リコール品のモバイルバッテリーが
発火する様子（再現実験）



3. リチウムイオン電池搭載製品の事故を防ぐ「3つのC」

賢く選ぶ (Cool Choice)

○購入前に、販売事業者の連絡先や製品情報、リコール情報を確認する

不具合や事故発生後に事業者の補償を受けられない、事業者と連絡が取れないなどの事態が発生しています。販売元の情報を確認し、サポートが日本語に対応しているかどうか、連絡先（電話番号や住所）が実在するか確認してください。

また、リチウムイオン電池搭載製品では、リコール対象製品による事故が2021年から2025年までの5年間で453件発生しています。事業者、消費者庁、NITEのホームページ等で製品がリコール対象製品かどうかを確認することができます。製品の製造・輸入事業者のホームページなどをこまめにチェックし、リコール情報を確認してください。もしリコール対象製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入事業者を確認や相談をしてください。

【NITE SAFE-Lite (ナイト セーフ・ライト)】

NITEはホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite (ナイト セーフ・ライト)」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。

<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>



【消費者庁のリコール情報検索サイト】

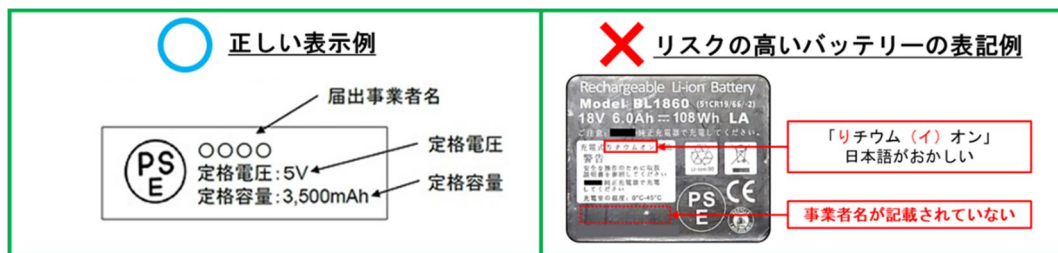
「消費者庁リコール情報サイト」では、消費者向け商品のリコール情報を掲載しており、キーワードによりリコール情報を検索することができます。さらに、「リコール情報メールサービス」に登録することで、新規のリコール情報等が提供されます。

<https://www.recall.caa.go.jp/>



○表示マークが適切か確認する

モバイルバッテリー等は、電気用品安全法の「リチウムイオン蓄電池」の規制対象※4です。対象製品は製造・輸入事業者が技術基準への適合を確認したうえで、PSEマークを表示することができます。購入する際は、マークの有無だけでなく、マークの近くに製造・輸入事業者名等（略称や登録商標を含む）が表示されているかも確認しましょう。



（※4）スマートフォン等、電気用品安全法の「リチウムイオン蓄電池」の対象外の製品もあります。

○非純正バッテリーについては取り付けようとしている製品のホームページに注意喚起が掲載されていないか確認する

安価で入手しやすい「非純正バッテリー※5」で火災を伴う事故が多く発生しています。非純正バッテリーを取り付けようとしている製品の事業者がホームページ等で注意喚起をしている場合があるため、購入する際は、事前に注意喚起情報を確認しましょう。

（※5）機器本体のメーカーとは無関係の事業者から販売されているバッテリーで、機器本体のメーカーが、そのバッテリーの設計や品質管理に一切関与していないもの

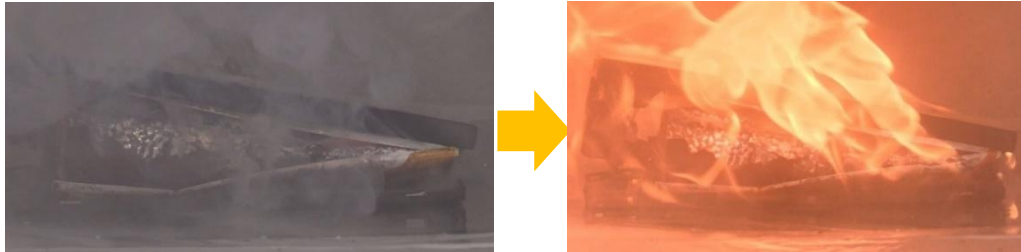
その他、購入する前にお住まいの自治体での廃棄方法やメーカー、家電量販店が回収可能な製品であるか等も事前に確認しましょう。廃棄の詳細については、後述の「正しく捨てる、そして資源循環」に記載しています。

丁寧に使う (Careful use)

○高温となる場所では使用・保管しない

リチウムイオン電池は、高温環境下では熱の影響で異常な反応が起きて発熱・破裂・発火するおそれがあります。直射日光の当たる場所や暑い日の自動車内などの高温下には放置しないでください。

また、自動車内での事故はモバイルバッテリーが最も多く、次いで電動工具の事故が多くなっています。



高温によるモバイルバッテリーからの出火（再現実験）

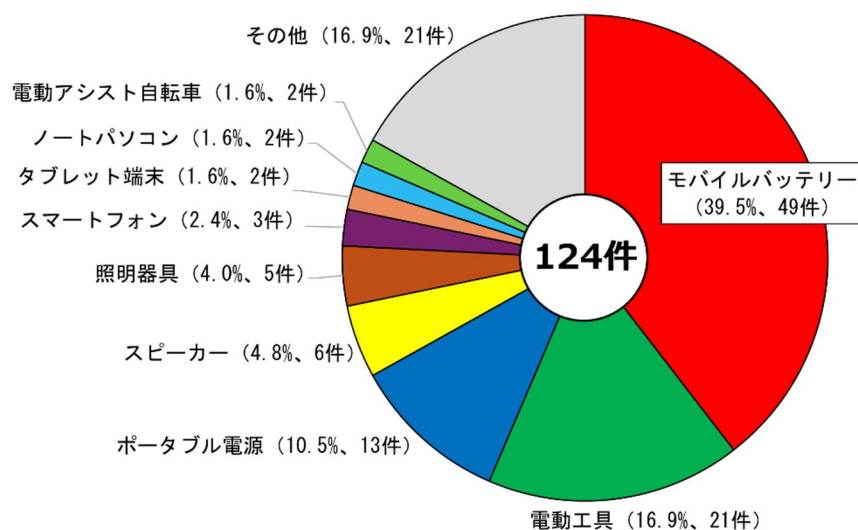


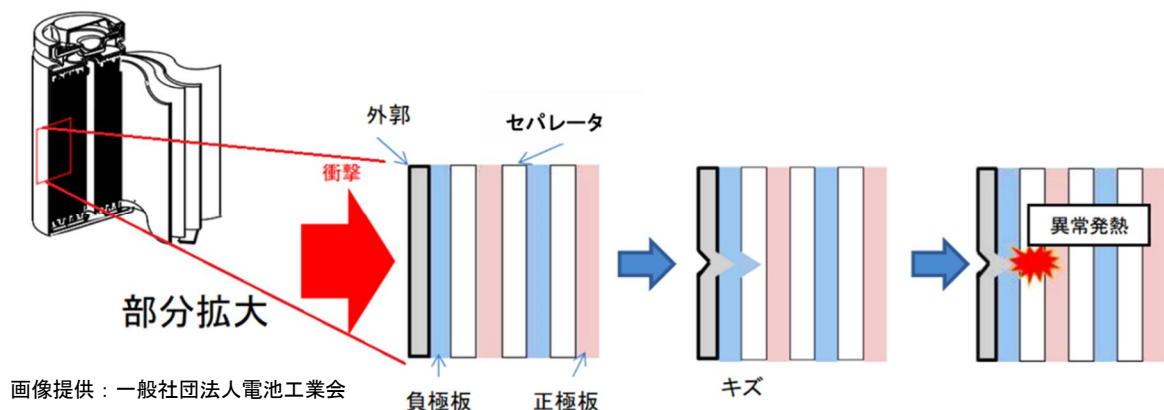
図3：自動車内での事故の製品別の割合

○強い衝撃や圧力を加えない

リチウムイオン電池は外部からの衝撃が加わると内部ショートが生じ、発煙や発火につながります。また、膨張を元に戻そうとして強い力が加わったことで異常発熱して出火した事故も発生しています。

以下のような強い衝撃や圧力を加えないように注意しましょう。

- ・落下等の強い衝撃や圧力を加えない
- ・かばんの中に入れる際に、上や近傍に硬いものや重いものを配置しない
- ・ズボンの後ろポケットになるべく入れない（座る際に折れ曲がる可能性があります）



○安全な場所で目の届くところで充電する

リチウムイオン電池搭載製品の事故は、充電中が多くなっています。充電中に異常が発生した際、すぐに対処できるように、外出時・就寝時などの充電を避け、周りに可燃物のない安全な場所で充電を行いましょう。

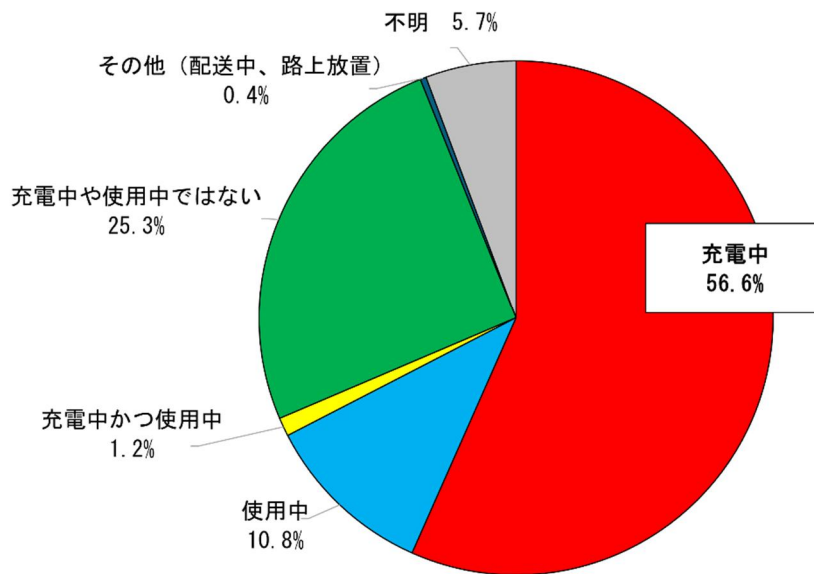


図4：リチウムイオン電池搭載製品の事故発生時の使用状況
(データの詳細は別紙1)

○異常を感じた場合は使用を中止する

充電・使用時は時々様子を見るようにしましょう。

以下のような異常を発見した場合は、発火につながるリスクが高くなっているため、充電・使用を中止して、お買い求めの販売店やメーカーに相談してください。

- ☐ 充電できない
- ☐ 不意に電源が切れる、急に充電残量がなくなる
- ☐ 充電中に以前よりも異常に熱くなる
- ☐ 膨らんで、変形している
- ☐ 焦げたにおいや化学薬品のようなにおいがする
- ☐ 落とす、ぶつけるなどで強い衝撃を与え、一部が変形や破損をしている



膨張したモバイルバッテリー
(再現実験)



スマートフォンの落下
(再現実験)

○発火した時は、まず安全を確保し、消火器や大量の水で消火する

万が一発火した場合、煙や炎が噴き出している時は絶対に近寄らないでください。モバイルバッテリーのようにポケットに入る小型サイズのものであれば、火花が収まったら、消火器や大量の水を掛けることで消火することができます。リチウムイオン電池は消火後も熱を帯びており、冷却しないまま可燃物に接触させると新たな火災につながるおそれがあるため、消火後は可能な限り水没させた状態で、消防機関へ通報してください。

上記の対処が困難と判断した場合は、身の安全の確保を第一に 119 番通報してください。



大量の水で消火している様子
(再現実験)



消火後に水没させる様子
(再現実験)



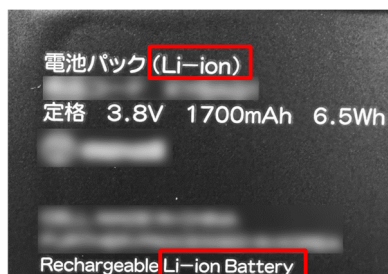
その他、「賢く購入する」のポイントと同様に、日々使用する製品については、こまめにリコール情報を確認するようにしましょう。

また、航空機等の公共交通機関では、持ち込みルールを守るとともに、留意事項を確認しましょう。
(別紙 4 に参考情報を記載しています)

○家電製品を廃棄する際はリチウムイオン電池の使用の有無を確認する

充電して使用する製品は、外観上プラスチック製品に見えてもリチウムイオン電池などの充電式電池が使用されています。

製品本体の表示や取扱説明書を確認し、リチウムイオン電池が使用されているか確認してください。「リチウムイオン」の他に、「リチウムポリマー」「Li-ion」「Li-Po」などと記載されている製品にもリチウムイオン電池が使用されています。記載がない場合などは販売店、メーカーに確認してください。



表示例（電池パック本体表示）

※リチウムイオン電池の有無を確認する際や廃棄する際は、製品の分解は行わないでください。
(分解する際に内部のリチウムイオン電池にダメージが入って発火する事故が発生しています。)

リチウムイオン電池が入っている製品例

(本体表示や取扱説明書等にて「リチウムイオン」「リチウムポリマー」「Li-ion」「Li-Po」などの表示を確認しましょう)



○廃棄する前には電池を使い切る

リチウムイオン電池は満充電状態よりも、使い切った（放電しきった）状態の方が発火等のリスクが低くなります。事故防止のため、できるだけ電池を使い切ってから廃棄するようにしてください。

○メーカー回収や自治体の回収区分等の廃棄方法を確認する

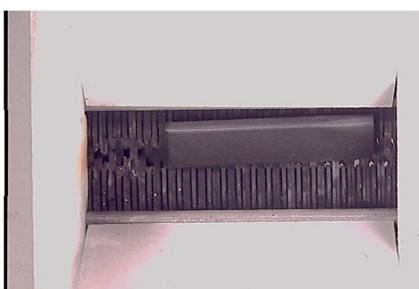
ごみ処理過程では、ごみを圧縮したり、破碎したりするなど、強い外力を加える工程が含まれることがあります。リチウムイオン電池がこれらの工程で強い外力を受けて損傷すると火災につながるおそれがあるため、他のごみと区別する必要があります。リチウムイオン電池が使用されている製品は、分別方法など含め、お住まいの自治体の指示に従って、正しく捨ててください。

また、製品によっては、メーカーや販売店等が不要になった製品の回収を受け付けている場合がありますので、取扱説明書やメーカー等のホームページを確認してください。

ごみ収集車にモバイルバッテリーが挟まれて発火



ごみ処理場の破碎機にバッテリーが挟まれて発火



○リサイクルされる廃棄方法を選択する

一般社団法人 JBRC では、資源有効利用促進法に基づき、所属会員企業が製造または販売したリチウムイオン電池を含む小型充電式電池を回収しています。回収対象となる小型充電式電池は電池の表面にリサイクルマークの表示があります。不要になった回収対象の小型充電式電池は、家電量販店やホームセンター等の協力店または協力自治体にお持ちください。会員企業、協力店・協力自治体は、JBRC のホームページで確認できます。

https://www.jbrc.com/general/recycle_kensaku/



リサイクルマーク表示例

なお、一般社団法人 JBRC による回収の対象となる電池は以下の条件を満たす必要があります。

- ・一般社団法人 JBRC の会員企業の製品であること（会員企業外品やメーカー不明品は回収対象外）
- ・電池種類（ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池のいずれか）が明確であること
- ・破損、水濡れや膨張等の異常のある電池や、外装なしのラミネートタイプの電池ではないこと

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 川崎 裕之

担当者 製品安全広報課 山副 敦司、清水 与也

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

参考データ

1. 年別・製品別の事故発生件数（本紙 1-1. の関連情報）

2021 年から 2025 年までの 5 年間に発生した「リチウムイオン電池搭載製品」の事故 2140 件について、製品別の事故発生件数を表 1 に示します。

表 1：年別・製品別の事故発生件数

	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	総計
モバイルバッテリー	51	56	82	125	192	506
電動アシスト自転車	38	51	40	43	33	205
充電式掃除機	26	29	38	48	26	167
充電式電動工具	27	42	34	26	36	165
ポータブル電源	14	21	28	41	43	147
ノートパソコン	22	12	31	34	16	115
スマートフォン	28	17	19	27	18	109
照明器具	16	17	28	19	18	98
スピーカー	6	6	5	26	38	81
タブレット端末	6	4	13	12	25	60
ワイヤレスイヤホン	5	4	8	19	20	56
携帯用扇風機	8	5	7	6	8	34
その他	54	94	82	79	88	397
総計	301	358	415	505	561	2140

2. 被害状況別の事故発生件数

2021 年から 2025 年までの 5 年間に発生した「リチウムイオン電池搭載製品」の事故 2140 件について、被害状況別の事故発生件数を表 2 に示します。

表 2：製品別・被害状況別の事故発生件数※1

	人的被害			物的被害		総計	うち 火災件数
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害※2	製品破損		
モバイルバッテリー		2 (2)	20 (24)	408	76	506 (26)	488
電動アシスト自転車		1 (1)	8 (16)	100	96	205 (17)	130
充電式掃除機		2 (2)	8 (15)	118	39	167 (17)	165
充電式電動工具	1 (1)	1 (1)	1 (8)	145	17	165 (10)	161
ポータブル電源			15 (22)	101	31	147 (22)	144
ノートパソコン		1 (1)	1 (3)	85	28	115 (4)	91
スマートフォン		2 (2)	12 (15)	72	23	109 (17)	101
照明器具			4 (5)	53	41	98 (5)	69
スピーカー				55	26	81	76
タブレット端末				36	24	60	54
ワイヤレスイヤホン		1 (1)	1 (1)	30	24	56 (2)	51
携帯用扇風機			2 (2)	21	11	34 (2)	33
その他	4 (4)	1 (1)	10 (12)	275	107	397 (17)	338
総計	5 (5)	11 (11)	82 (123)	1499	543	2140 (139)	1901

(※1) ()は被害者数。物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。

(※2) 製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

3. 事故発生時の使用状況（本紙3.の「丁寧に使う」の関連情報）

2021年から2025年までの5年間に発生した「リチウムイオン電池搭載製品」の事故2140件について、事故発生時の使用状況別の件数を表3に示します。

表3：事故発生時の状況別の事故発生件数

	総計	うち自動車内の事故 ^{※4}	うち分解中の事故 ^{※4}	うちリコール対象製品 ^{※4}
充電中 ^{※3}	1212	16		241
使用中 ^{※3}	231	12		38
充電中かつ使用中	25	1		7
充電中や使用中ではない	542	93	19	141
その他（配送中、路上放置）	8			1
不明	122	2		25
総計	2140	124	19	453

(※3) 充電中には、充電直後（充電後約1時間以内に事故が発生したと考えられるもの）も含まれます。また、使用後には、使用直後（使用後約1時間以内に事故が発生したと考えられるもの）も含まれます。

(※4) 本表の各内訳は一部抜粋であり、各内訳は重複する場合があります。（例：自動車内の事故であり、リコール対象製品の事故でもある等）

4. モバイルバッテリーの参考データ

4-1. 事故発生時の使用状況

2021年から2025年までの5年間に発生した「モバイルバッテリー」の事故506件について、事故発生時の使用状況別の件数を表4に示します。

表4：事故発生時の状況別の事故発生件数

	総計	うち自動車内の事故 ^{※6}	うちリコール対象製品 ^{※6}
充電中 ^{※5}	297	6	42
使用中 ^{※5}	49	5	9
充電中かつ使用中	6		1
充電中や使用中ではない	129	38	17
その他（配送中、路上放置）	4		
不明	21		
総計	506	49	69

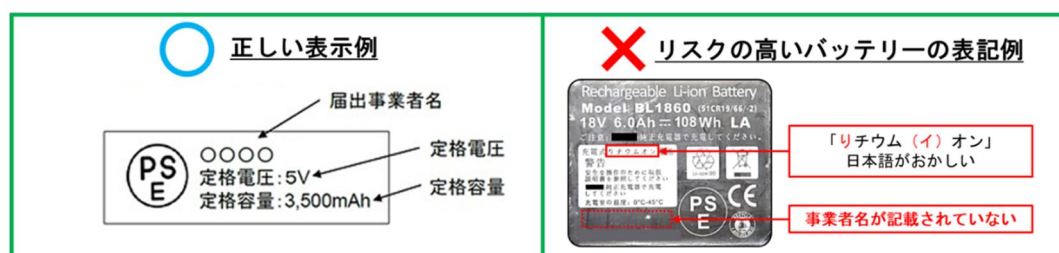
(※5) 充電中には、充電直後（充電後約1時間以内に事故が発生したと考えられるもの）も含まれます。また、使用後には、使用直後（使用後約1時間以内に事故が発生したと考えられるもの）も含まれます。

(※6) 総計に対するそれぞれの内訳数は、重複する場合があります。（例：自動車内の事故であり、リコール対象製品の事故でもある等）

リチウムイオン電池搭載製品のチェックリスト

【購入時のチェックポイント】

- リコール情報を確認する（NITE SAFE-Lite（リコール情報）：<https://safe-lite.nite.go.jp/>）
- 他の類似製品と比べて極端に安くないか確認する
- 販売元の連絡先や日本語でのサポートが可能かどうか確認する
- PSE マークが表示されているか、PSE マークの近傍に事業者名（PSE の届出事業者名）があるか確認する ※スマートフォンなど PSE の対象となっていない製品もあります



- 非純正品は取り付けようとしている製品のホームページに注意喚起の掲載がないか確認する
- 購入時に廃棄方法も事前に確認する

【使用時のチェックポイント】

<使用・保管環境>

- 暑い日の自動車内に放置しない（暑い日はダッシュボードの上だけでなく、座席の上などの車内全体が高温になります）
- かばんの中に入れている場合も含めて、直射日光の当たる場所への放置をしない（自宅の窓際、砂浜、ベンチの上など）



自動車内に放置している様子（イメージ）

<取り扱い>

- 落下等の強い衝撃や圧力を加えない
- かばんの中に入れる際に、上や近傍に硬いものや重いものを配置しない
- ズボンの後ろポケットになるべく入れない（座る際に折れ曲がる可能性があります）
- 防水機能のない製品は水に濡らさない



後ろポケットに入れて座る様子

<充電時>

- 安全な場所で、目の届くところで充電する（外出時や就寝時の充電を避ける）
- 指定された充電器を使用する（出力電圧の異なる充電器を使用しない）

<異常発生時>

- 異常を感じたら使用を中止し、金属缶や土鍋等の燃えない容器に入れて、販売店やメーカー等に相談する

○異常の例

- ・ 充電できない
- ・ 不意に電源が切れる、急に充電残量がなくなる
- ・ 充電中に以前よりも異常に熱くなる
- ・ 膨らんで、変形している
- ・ 焦げたにおいや化学薬品のようなにおいがする
- ・ 落とす、ぶつけるなどで強い衝撃を与え、一部が変形や破損をしている

- 発火したときはまず身の安全を確保し、消火器や大量の水で消火して 119 番通報する
※対処が困難と判断した場合は無理に消火せず 119 番通報をする



大量の水で消火している様子
(再現実験)

<その他>

- リコール情報を定期的に確認する
(NITE SAFE-Lite (リコール情報) : <https://safe-lite.nite.go.jp/>)
- 保管する際は、なるべく満充電の状態を避け、どれくらいの頻度で充電する必要があるかを取扱説明書等で確認する (過放電による劣化を防ぐため)
- 公共交通機関では、持ち込みルールを守るとともに、留意事項を確認する

【廃棄時のチェックポイント】

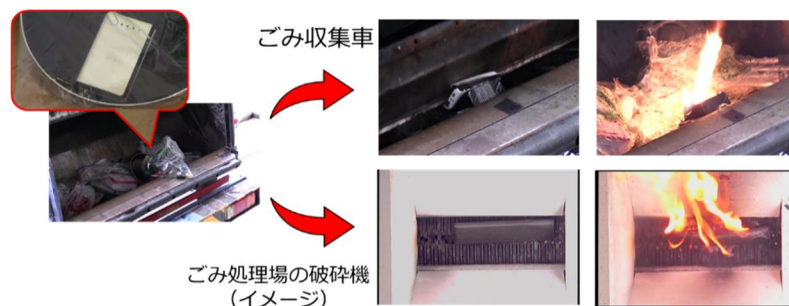
- リチウムイオン電池使用の有無を確認する (充電して使用する機器にリチウムイオン電池が入っている可能性があります)

○リチウムイオン電池が入っている製品例

(本体表示や取説等にて「リチウムイオン」「リチウムポリマー」「Li-ion」「Li-Po」などの表示を確認しましょう)



- 廃棄方法 (メーカー回収の有無や自治体の回収方法など) を確認し、燃えるごみや不燃ごみ等の一般ごみに混ぜない



- 廃棄する前には電池を使い切る
- 絶対に分解しない。着脱可能なバッテリーは、取扱説明書に従って取り外す。

リチウムイオン電池安全啓発キャンペーンについて

現在、リチウムイオン電池の3つのC（「賢く選ぶ」「丁寧に使う」「正しく捨てる、そして資源循環」）に関して、関係企業・各団体により様々な安全啓発が行われています。

こうした中、事故増加が懸念される夏前に向け、経済産業省の呼びかけのもと、消費者への安全啓発につなげることを目的として、リチウムイオン電池安全対策連絡会の参加者等を中心とした関係者が連携し、効果的な情報発信を行う「リチウムイオン電池安全啓発キャンペーン」を実施しています。

○リチウムイオン電池安全啓発キャンペーンの紹介サイト

経済産業省「リチウムイオン蓄電池搭載製品の事故に気をつけましょう！」

https://www.meti.go.jp/product_safety/consumer/lithium_ion_battery.html

リチウムイオン電池安全啓発キャンペーン賛同一覧



夏本番!

モバイルバッテリーなど
発火事故に
気を付けましょう!!

リチウムイオン電池に
起因する**発熱・発火事故**が
増加しています!

安全安心に使うため、使用时・購入前にcheck!

製品にPSEマーク
が付いているか確認!

リコール対象外
製品かチェック!

高温・直射日光
を避けましょう!

衝撃や圧力を
加えないで!

充電時の異常
に気を付けて!

[リチウムイオン電池安全啓発キャンペーン賛同一覧]

ANKER ELECOM COOLPAD HIDISC Denkyosh maxell CHARGE SPOT

amazon LINEヤフー Rakuten

EDUN ケースデンキ Joshin Itojima ビックカメラ ベイシア電器 YAMADA HLDGS.

BAJ JBRC JPPSA MCPC JET JQA Solutions nite

消費者庁 総務省消防庁 経済産業省 国土交通省 環境省

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

詳しくはこちら

(参考) 経済産業省の注意喚起ポスター

公共交通機関等での持ち込み、使用ルールに関する参考情報（一例）

※2026 年 7 月 10 日時点の情報のため、内容が更新されている可能性があります。

○航空機

国土交通省「モバイルバッテリーの機内持ち込みの新たなルールについて」

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001995959.pdf>

○鉄道

東急電鉄株式会社「車内におけるモバイルバッテリーの使用についてのお願い」

<https://www.tokyu.co.jp/company/information/detail/61206.html>

○高速バス

ジェイアールバス関東株式会社

「モバイルバッテリー等（リチウムイオン電池内蔵機器）の収納・使用に関するお願い」

<https://www.jrbuskanto.co.jp/jwp/uncategorized/20251023.html>

○宿泊施設

日本ホテル株式会社「モバイルバッテリーのご使用に関するお願い」

<https://www.nihonhotel.com/nh-news-mobilebattery.html>